

石巻訪問

山田 富美雄

東日本大震災から4カ月が過ぎた7月17日、宮城県石巻市の湊小学校を訪問してきました。

●1週間後テレビで伝えたこと

湊小学校とご縁は、6月17日に届いたさくら教育研究所長、小澤美代子先生からのメールが発端。阪神淡路大震災（以下「阪神淡路」）時に開発した震災ストレス症状を把握するための『自分を知らうチェックリスト』を使いたいという丁寧な依頼メールでした。3月29日の日本学校心理士会の緊急支援研修会で、大阪教育大学教授、瀧野陽三先生からこのチェックリストを紹介され、ストレスマネジメント教育を、湊小学校の子どもたちに実施したいとのこと。4月4日から石巻市立湊小学校避難所にボランティアとして入られた後、5月9日から湊小学校が住吉中学校を間借りして授業再開しからは、教育支援、教師支援に重点を置いた活動を継続しておられます。私がチェック

リストの使用を快諾したことはいうまでもありません。

『自分を知らうチェックリスト』を使った授業案を提示し、22～23日の2日間で全学年に実施されました。1年生はまだ字を習ってひと月少しなので、担任が個別に実施されたとか。私は、チェックリストへの回答から、不安、うつ、混乱、および愛他性の得点を自動算出するExcelシートをメールに添付してお送りし、詳細なデータ処理も請け負うという後方支援を担うこととなりました。

6月25日には東京でお会いし、詳細な状況把握と分析資料の交換を行いました。小澤先生たちは、この週から、担任教諭とともに気になる子どもを対象とした面接を開始されることとなります。

●ストレスの現れ方に違いが

Excelシートに現れる子どもの素直な反応を、「阪神淡路」時の反応パターンと

比較してみると、いくつか特徴が見られました。ストレスの得点は、全般に女児が男児よりも高いところは類似していましたが、今回と「阪神淡路」とで2点異なることがありました。

まず第一に、ストレス症状が「阪神淡路」より相当強いことです。「阪神淡路」では、不安、うつ、混乱というストレスの3症状はどれも2カ月後から6カ月後へと大きく低下しました。震災3カ月後に実施した石巻の子のストレス症状は、「阪神淡路」の2カ月後より高い水準にありました。

第二の違いは混乱症状の現れ方の男女差です。「阪神淡路」のときは、震災2カ月後には男子が女子よりも強く現れていたのですが、今回の石巻の子どもには性差はありません。女兒の混乱症状が、今回相当強いことを示しているといえるでしょう。

●違いの原因を求めて

今回の震災は、「阪神淡路」と単純に比較分が悪くなりました。被災当初は、湊小学校に1400名超の避難者が集まっていたのが、今は10分の1の約140名。教室は地区ごとに割り振られ、気の合った近所さん同士が寄り添うように暮らしておられます。ちょうどこの日、日赤から派遣の医療班が撤退し、避難者の医療は地域の医院や病院に戻ったと世話役の阿部さんが語ってくださいました。9月には避難者全員の仮設住宅への移転が語られていましたが、生まれ育ったこの地を離れたくない人も多いようでした。

震災後4カ月後の風景は、「阪神淡路」のそれと随分異なっていました。復興が遅いとか、いいようがありません。しかも、風景が悪い。嗅覚もおかしくなります。瓦礫のせいか、悪臭が立ち、尋常ではない量の蠅が飛び交っています。蠅の羽音に苛立つ炎天下、熱中症で倒れる人も多いたか。持参した機能的飲料の粉末は、まさにびつたりの避難所手土産と大喜びされたことはいまでもありません。

石巻の子どもたちのストレス反応の強さは、こうした環境要因が主因だと思えました。

できないことは自明です。前回は内陸直下型であり、揺れは十数秒以内でしたが、今回は海洋型で揺れは1～2分継続した後、津波が町並みと家屋を破壊しました。被害の程度も一桁違う規模です。子どものストレスの現れ方に見られる2点の違いは、こうした量的な違いだけに由来するのでしょうか。その後の避難生活が新たなストレス源となっているのかもしれませんが。

矢も立てもたまず、現地に向かう決心をしたのは7月第1週。17日8時40分伊丹発の仙台便を予約し、院生と二人で緊急訪問することとなりました。19日には本務校で授業があるので18日中に帰阪しなくてはなりません。予約可能な唯一の便は18日12時25分仙台発なので、正味1日しか現地にいられないバタバタとした旅となりました。

●いつまで間借り学舎？

まず間借りしている中学校を訪ねました。中学生が元気に走り回っているような廊下の端に、小学1年生の教室が肩身狭そうにたたずんでいます。中に入ると、20脚ほどの小さな椅子と机が仲良く並んでいます。運動場が見渡せる窓際には朝顔の植木

鉢が置かれ、壁には可愛い絵や、お習字作品が張られています。日曜日だったので、運動部の中学生の声が聞こえてくるだけで、小学生の顔を見る機会はなく、教頭先生からお話が聞けたに留まりました。小学生たちは、毎朝湊小学校前から先生の先導でバスに乗ってやってきて、授業が終わるとバスで一斉に帰るのだそうです。教員室は1階の教室を転用しており、中学校教員との交流はまったくないとのこと。1つの校舎に中学と小学校が同居する今の形は、今後も続くとの観測でした。

教育委員会を訪ねて、今後の小学校の運営などについて伺おうとしたのですが、日曜で指導主事は自宅。施設管理の方に携帯電話をかけてもらい、話をさせていただきました。が、残念ながら何も決まっていなかったこと。

最後に避難所となっている湊小学校へ移動。道すがら、壊れた信号の代わりに角ごとに立つ警察官が車を誘導してくれます。店舗や商用施設、民家、飲食街などの1階部分は瓦礫が撤去されたまま空洞となり、道路から見通す光景は異様そのもの。地面が盛り上がりついたり、陥没していたり、まっすぐ立っただけでも平衡感覚がずれて気